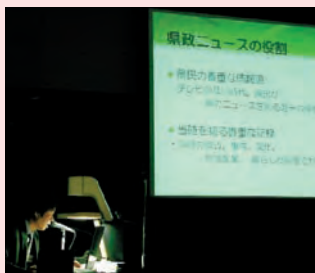




▶ **目で見るみやぎ** ～ 県政ニュースを振り返る ～

■ 11月1日開催



「宮城県政ニュース」は、1954年から1987年までに宮城県で製作された、16mmフィルムによる映像記録です。テレビが普及していない当時、県民が県のニュースを知る唯一の映像ツールでした。

当日は「国民温泉となる鳴子温泉郷 樹水への招待」(1959)、「牡鹿コバルトライン」(1970)、「特報『津波宮城県を襲う』」(1960)の3本を上映して解説を加えました。また、映像などを後世に残すためのデジタル化(デジタルアーカイブ)についても紹介しました。

🗨️ **職員voice**

「宮城県政ニュース」は、元のフィルムからDVDなどへデジタル変換・保存しています。フィルムの長期保存による劣化と、フィルム再生機器の確保が困難であるためです。図書館では、これからも「利用のための資料保存」を目指していきます。

▶ **江戸城内の将軍家図書館** — 紅葉山文庫と書物奉行 —

■ 11月8日開催

江戸城内には「紅葉山文庫」という現在の図書館にあたるものがありました。11代将軍徳川家齊の時代には約10万冊の蔵書があったといわれています。利用者が将軍や幕府の役人など極めて限定され、現在の図書館司書にあたる「書物奉行」という役人が厳重に管理していたこともあって多くの貴重な資料が現在まで残されています。徳川吉宗の時代の利用資料の内容を分析し、書物奉行の果たした役割について解説しました。



🗨️ **職員voice**

書物奉行という図書館司書にあたる「人」を介させることで紅葉山文庫の蔵書内容の水準が維持され、利用の活性化が図られました。いつの時代でも図書館は「人」が手をかけることによって発展するものであるといえます。

▶ **折本づくりについて** ～ 超かんたん きれいに仕上がる私だけのオリジナル折本～

■ 11月15日開催



本には大きく分けて、日本に古くからある和装本と、明治時代に西洋から入ってきた洋装本とがあります。折本は和装本の一つで、横に長くつなぎ合わせた紙を一定の幅で折りたんで作る書物で、手軽に色々な作品を作ることができます。年賀状ブックの作成や、撮りためた写真でのミニ写真集作りなどに応用できます。当日は参加者の方にご持参いただいたはがきや写真を使って、工夫を凝らした思いの折本づくりを体験いただきました。

🗨️ **職員voice**

本の歴史をひもとくと、江戸時代以前は折本などの和装本が中心だったことが分かります。本館では様々な形態の本を作る楽しみ方について紹介した資料を所蔵しています。今回の講座をきっかけに、ぜひ本作りを体験いただきたいと思います。

▶ **宮城県図書館 貴重書の世界** — みやぎの『叡智』の源流を訪ねて —

■ 11月22日開催

本館所蔵の特殊コレクションと貴重書の中から、国、県指定の文化財を中心に解説しました。17世紀初頭に北京で刊行された漢訳世界地図『坤輿万国全図』、江戸後期の博物誌『禽譜』『魚鱗譜』、日本人として初めて世界一周した仙台湾水夫の漂流記『環海異聞』等を取り上げ、それぞれの成立、構成、特徴、学術専門調査の成果、資料にまつわるエピソード等を紹介しました。また、特殊コレクションから「伊達文庫」「養賢堂文庫」「青柳文庫」を紹介しました。



🗨️ **職員voice**

今回の貴重書の多くが本館の長期プロジェクト「叡智の杜づくり事業」の中で価値が再発見され、新たに文化財として指定されました。「古きをたずねて新しきを知る」との言葉どおり、こうした資料が次の時代をつくる礎となることを願っています。

▶ **時代に睨まれた本たち** — もう一つの貴重資料 —

■ 11月29日開催



江戸時代や戦前の日本において、出版物などを公権力が審査し、その内容が体制にそぐわなければ発売や発行を禁止(略称「発禁」)する検閲制度がありました。これは、1949年に日本国憲法によって表現の自由と検閲の禁止が定められるまで続きました。当日は、江戸時代以降に出版された所蔵資料から、実際に発禁処分を受けた資料を紹介し、出版取締りに関する触書や法令などと照らして、それぞれの時代背景について理解を深めました。

🗨️ **職員voice**

私たちは今、好きな本を自由に手に取ることができます。過去の社会情勢の中、それが許されなかった事実があったことを忘れてはいけないと感じました。江戸時代以降の本と時代との関わりを通して、図書館の新たな一面を知って頂けたと思います。